

沿岸南部地区の県立高校の状況

1 募集学科・在籍生徒数等（令和7年度：全日制）

学校名	募集学科(定員)	募集 定員	全 校 学級数	在 籍 生徒数	備 考
高 田	普通(120)、【水産】海洋システム(40)	160	12	340	
大 船 渡	普通(160)	160	12	401	
大船渡東	【農業】農芸科学(40)、【工業】機械電気(40)、 【商業】情報処理(40)、【家庭】食物文化(40)	160	12	205	
住 田	普通(40)	40	3	66	
釜 石	普通(120)、理数(40) ※普通・理数くくり募集	160	12	394	
釜石商工	【工業】機械(40)、電気電子(40)、【商業】総合情報(40)	120	9	176	
大 槌	地域探究(80)	80	6	162	R6 学科改編

2 入試の状況

学校名	学科	R5				R6				R7			
		定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異	定員	総志願者	合格者	定員差異
高 田	普通	120	93	93	▲27	120	102	102	▲18	120	115	115	▲5
	海洋システム	40	11	11	▲29	40	11	11	▲29	40	11	11	▲29
大 船 渡	普通	160	144	142	▲18	160	130	130	▲30	160	140	135	▲25
大船渡東	農芸科学	40	13	13	▲27	40	13	13	▲27	40	12	12	▲28
	機械電気	40	20	20	▲20	40	10	10	▲30	40	22	22	▲18
	情報処理	40	23	23	▲17	40	16	16	▲24	40	20	20	▲20
	食物文化	40	23	23	▲17	40	18	18	▲22	40	24	24	▲16
住 田	普通	40	17	17	▲23	40	28	28	▲12	40	24	24	▲16
釜 石	普通・理数	160	132	131	▲29	160	121	120	▲40	160	147	145	▲15
釜石商工	機械	40	35	34	▲6	40	22	22	▲18	40	27	27	▲13
	電気電子	40	5	4	▲36	40	8	8	▲32	40	12	12	▲28
	総合情報	40	30	30	▲10	40	29	27	▲13	40	16	16	▲24
大 槌	普通	80	64	62	▲18	—	—	—	—	—	—	—	—
	地域探究	—	—	—	—	80	52	52	▲28	80	58	58	▲22
沿岸南部地区計		880	610	603	▲277	880	560	557	▲323	880	628	621	▲259

3 市町村の中学校卒業者の推移 (R7. 5. 1 時点)

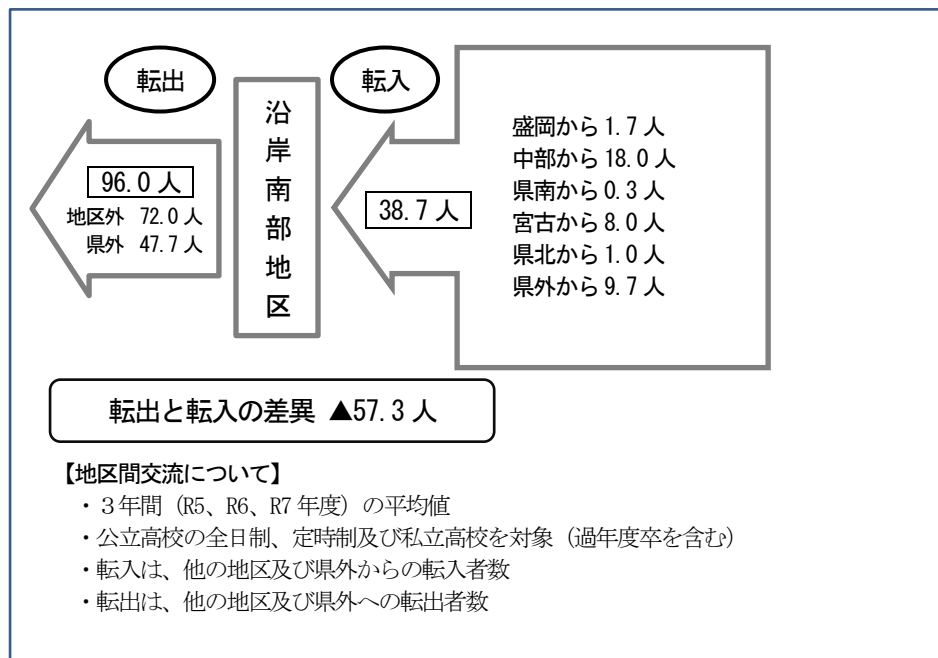
第3期県立高等学校再編計画期間(R8~R17)

※中段：対前年比、下段：対R7年比

	R7年3月	R8年3月	R9年3月	R10年3月	R11年3月	R12年3月	R13年3月	R14年3月	R15年3月	R16年3月	R17年3月	R18年3月	R19年3月	R20年3月	R21年3月
大船渡	241	242	222	229	207	228	229	213	184	177	166	148	140	131	120
		1	-20	7	-22	21	1	-16	-29	-7	-11	-18	-8	-9	-11
		1	-19	-12	-34	-13	-12	-28	-57	-64	-75	-93	-101	-110	-121
陸前高田	136	102	101	112	104	97	106	104	102	90	96	91	78	69	61
		-34	-1	11	-8	-7	9	-2	-2	-12	6	-5	-13	-9	-8
		-34	-35	-24	-32	-39	-30	-32	-34	-46	-40	-45	-58	-67	-75
住田	32	27	21	21	29	16	23	22	21	23	21	17	16	12	7
		-5	-6	0	8	-13	7	-1	-1	2	-2	-4	-1	-4	-5
		-5	-11	-11	-3	-16	-9	-10	-11	-9	-11	-15	-16	-20	-25
気仙地域	409	371	344	362	340	341	358	339	307	290	283	256	234	212	188
		-38	-27	18	-22	1	17	-19	-32	-17	-7	-27	-22	-22	-24
計		-38	-65	-47	-69	-68	-51	-70	-102	-119	-126	-153	-175	-197	-221
釜石	234	171	206	207	175	197	168	180	155	140	127	127	124	113	118
		-63	35	1	-32	22	-29	12	-25	-15	-13	0	-3	-11	5
		-63	-28	-27	-59	-37	-66	-54	-79	-94	-107	-107	-110	-121	-116
大槌	70	87	64	84	80	74	85	63	71	59	56	56	51	46	43
		17	-23	20	-4	-6	11	-22	8	-12	-3	0	-5	-5	-3
		17	-6	14	10	4	15	-7	1	-11	-14	-14	-19	-24	-27
釜石地域	304	258	270	291	255	271	253	243	226	199	183	183	175	159	161
		-46	12	21	-36	16	-18	-10	-17	-27	-16	0	-8	-16	2
計		-46	-34	-13	-49	-33	-51	-61	-78	-105	-121	-121	-129	-145	-143
沿岸南部	713	629	614	653	595	612	611	582	533	489	466	439	409	371	349
		-84	-15	39	-58	17	-1	-29	-49	-44	-23	-27	-30	-38	-22
地区計		-84	-99	-60	-118	-101	-102	-131	-180	-224	-247	-274	-304	-342	-364

卒業生 現中3 中2 中1 小6 小5 小4 小3 小2 小1 5才・4才 4才・3才 3才・2才 2才・1才 1才・0才

4 地区間交流の状況 (3年間の平均)



5 入学者の推計 (R7. 5. 1 時点)

第3期県立高等学校再編計画期間(R8～R17)

学校	学級数	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20	R21
高田	4	126	100	95	101	96	91	98	95	89	82	83	76	68	60	53
	参考値		101	96	103	98	93	100	96	90	83	84	78	69	62	55
大船渡	4	135	131	121	126	117	121	125	118	105	100	96	86	80	73	65
大船東	4	78	70	65	67	62	66	67	63	55	53	50	45	42	39	35
	参考値		70	65	67	62	66	67	63	55	53	50	45	42	39	35
住田	1	24	20	19	20	19	18	19	18	16	16	15	14	13	11	10
	参考値		21	20	21	20	19	20	20	18	17	16	15	14	13	11
釜石	4	145	113	119	126	113	115	109	104	93	88	81	80	76	70	69
釜商工	3	55	47	54	56	48	53	46	48	38	38	35	34	33	30	31
大槌	2	58	52	44	53	49	47	51	42	43	37	35	35	32	29	28
	参考値		57	49	58	54	53	56	47	47	42	40	40	37	34	33
計	22	621	533	517	549	504	511	515	488	439	414	395	370	344	312	291
必要学級		16	14	13	14	13	13	13	13	11	11	10	10	9	8	8
参考値計			540	524	557	512	520	523	496	446	421	402	378	351	321	299
参考値必要学級数			14	14	14	13	13	14	13	12	11	11	10	9	9	8

【入学者推計について】

- ・ R 7は実績値（入学者数は、合格者数と異なることがある）
- ・ 過去3年間の入学実績、及び中学校卒業予定者数推移に基づいて算出したもの
- ・ 網掛けはR 7年度募集定員より40名以上の欠員又は20名以下の見込みを示す
- ・ 「参考値」は県境隣接協定及びいわて留学における他県からの入学生の推計を加えた値

令和 7 年度の入試状況について（県立高校全日制）

年 度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
中 学 校 卒 業 者 数	10,677	10,092	10,396	10,077	9,954	9,675
募 集 定 員	8,960	8,960	8,920	8,720	8,680	8,520
総 志 願 者 数	8,197	7,670	7,969	7,601	7,483	6,897
合 格 者 数	7,491	7,194	7,219	6,910	6,804	6,531
欠 員	▲1,469	▲1,766	▲1,701	▲1,810	▲1,876	▲1,989
調整後志願倍率	0.87	0.82	0.85	0.82	0.80	0.80

令和7年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等（全日制）

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡	盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	287	7	331
	盛岡第二	普通	普通	200	195	▲ 5	196
	盛岡第三	普通	普通	280	286	6	324
	盛岡第四	普通	普通	240	246	6	298
	盛岡北	普通	普通	200	200	0	241
	南昌みらい	普通	文理	160	161	1	184
		普通	芸術	40	34	▲ 6	34
		普通	外国語	40	36	▲ 4	34
		普通	スポーツ科学	80	80	0	93
	盛岡農業	農業	動物科学	40	35	▲ 5	35
		農業	植物科学	40	13	▲ 27	12
		農業	食品科学	40	42	2	51
		農業	人間科学	40	35	▲ 5	28
		農業	環境科学	40	18	▲ 22	18
	盛岡工業	工業	機械	40	37	▲ 3	39
		工業	電気	40	40	0	40
		工業	電子情報	40	40	0	44
		工業	電子機械	40	38	▲ 2	39
		工業	工業化学	40	11	▲ 29	8
		工業	土木	40	36	▲ 4	37
		工業	建築・デザイン	40	40	0	42
	盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	97
		商業	会計ビジネス	80	82	2	91
		商業	情報ビジネス	80	82	2	98
	沼宮内	普通	普通	40	21	▲ 19	22
	葛巻	普通	普通	80	42	▲ 38	42
	平舘	普通	普通	40	16	▲ 24	16
		家庭	家政科学	40	3	▲ 37	3
	雫石	普通	普通	40	39	▲ 1	41
	14 紫波総合	総合	総合	120	86	▲ 34	88
	花巻北	普通	普通	240	217	▲ 23	223
	花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	115	▲ 5	113
		普通	スポーツ健康科学	40	40	0	42
		普通	国際科学	40	24	▲ 16	24
	花巻農業	農業	生物科学	40	36	▲ 4	38
		農業	環境科学	40	22	▲ 18	22
		農業	食農科学	40	34	▲ 6	34
	花北青雲	工業	情報工学	40	28	▲ 12	28
		商業	ビジネス情報	80	80	0	81
		家庭	総合生活	40	29	▲ 11	29
中部	大迫	普通	普通	40	15	▲ 25	15
	遠野	普通	普通	120	108	▲ 12	113
	遠野緑峰	農業	生産技術	40	21	▲ 19	21
		商業	情報処理	40	8	▲ 32	8
	黒沢尻北	普通	普通	240	196	▲ 44	205
	北上翔南	総合	総合	160	126	▲ 34	127
	黒沢尻工業	工業	機械	40	29	▲ 11	29
		工業	電気	40	25	▲ 15	27
		工業	電子	40	25	▲ 15	25
		工業	電子機械	40	24	▲ 16	26
		工業	土木	40	13	▲ 27	13
		工業	材料技術	40	14	▲ 26	13
	11 西和賀	普通	普通	80	67	▲ 13	69
	水沢	普通・理数	普通・理数	240	232	▲ 8	242
	水沢農業	農業	農業科学	40	18	▲ 22	19
		農業	食品科学科	40	12	▲ 28	13
県南	水沢工業	工業	機械	40	21	▲ 19	22
		工業	電気	40	20	▲ 20	20
		工業	設備システム	40	30	▲ 10	30
		工業	インテリア	40	17	▲ 23	17
	水沢商業	商業	商業	40	28	▲ 12	27
		商業	会計ビジネス	40	24	▲ 16	23
		商業	情報システム	40	40	0	44
	前沢	普通	普通	40	32	▲ 8	33
	金ヶ崎	普通	普通	80	20	▲ 60	20
	岩谷堂	総合	総合	120	81	▲ 39	81
	一関第一	普通・理数	普通・理数	200	200	0	213
	一関第二	総合	総合	200	202	2	217
	一関工業	工業	電気電子	40	38	▲ 2	41
		工業	電子機械	40	40	0	43
		工業	土木	40	19	▲ 21	22
	花泉	普通	普通	40	40	0	41
	大東	普通	普通	80	27	▲ 53	27
		商業	情報ビジネス	40	3	▲ 37	3
	千厩	普通	普通	120	78	▲ 42	80
		農業	生産技術	40	28	▲ 12	30
13		工業	産業技術	40	34	▲ 6	34

地区	学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
沿岸南部	高田	普通	普通	120	115	▲ 5	115
		水産	海洋システム	40	11	▲ 29	11
	大船渡	普通	普通	160	135	▲ 25	140
	大船渡東	農業	農芸科学	40	12	▲ 28	12
		工業	機械電気科	40	22	▲ 18	22
		商業	情報処理	40	20	▲ 20	20
		家庭	食物文化	40	24	▲ 16	24
	住田	普通	普通	40	24	▲ 16	24
	釜石	普通・理数	普通・理数	160	145	▲ 15	147
	釜石商工	工業	機械	40	27	▲ 13	27
宮古		工業	電気電子	40	12	▲ 28	12
		商業	総合情報	40	16	▲ 24	16
	7 大槌	普通	地域探究	80	58	▲ 22	58
	山田	普通	普通	40	18	▲ 22	18
	宮古	普通	普通	200	151	▲ 49	153
	宮古北	普通	普通	40	21	▲ 19	21
	宮古商工	工業	機械システム	40	16	▲ 24	16
		工業	電気システム	40	11	▲ 29	11
		商業	総合ビジネス	40	35	▲ 5	35
		商業	流通ビジネス	40	34	▲ 6	36
岩手		商業	情報ビジネス	40	39	▲ 1	39
	宮古水産	水産	海洋生産	40	9	▲ 31	7
		家庭	食物	40	22	▲ 18	25
	6 岩泉	普通	普通	80	41	▲ 39	41
	久慈	普通	普通	160	137	▲ 23	137
	久慈翔北	工業	工業	40	15	▲ 25	15
		総合	総合	200	124	▲ 76	124
	種市	普通	普通	40	10	▲ 30	11
		工業	海洋開発	40	11	▲ 29	11
	大野	普通	普通	40	13	▲ 27	13
県北	軽米	普通	普通	80	31	▲ 49	31
	伊保内	普通	普通	40	23	▲ 17	24
	福岡	普通	普通	160	82	▲ 78	83
	北桜	工業	機械システム	40	23	▲ 17	23
		工業	電気情報システム	40	14	▲ 26	14
		総合	総合	120	87	▲ 33	88
	計 59	113学科（学系）		8,520	6,531	▲ 1,989	6,897

※参考＜市立＞

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総志願 者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	38	3	43
	普通	普通	160	164	4	194
	商業	商業	80	82	2	96
計 1			275	284	9	333

今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回） 開催結果

1 実施時期

令和7年8月20日（水）～8月29日（金）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第2回会議内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての概要説明
- (2) 「第3期県立高等学校再編計画」（当初案）についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 8月28日	サンセール盛岡	18	12	16	6	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 8月20日	サンセール盛岡	16	6	6	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 8月21日	東和総合福祉センター	18	6	12	13	49
県南	奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市	令和7年 8月26日	奥州市役所 江刺総合支所	17	5	15	13	50
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 8月29日	陸前高田市 コミュニティホール	22	3	8	10	43
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 8月21日	宮古地区 合同庁舎	19	0	7	11	37
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 8月20日	久慈地区 合同庁舎	17	3	5	5	30
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 8月22日	二戸地区 合同庁舎	13	1	5	10	29
計				140	36	74	75	325

今後の県立高校に関する地域検討会議（第1回） 開催結果

1 実施時期

令和7年5月20日（火）～6月5日（木）の間（実施日は4 実施状況参照）

2 目的

「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」を踏まえ、各地区における高校のあるべき姿や地域の実情に応じた高校や学科の配置等について、地域の代表者等と意見交換（「地域検討会議」）を行い、次期県立高等学校再編計画の検討に資する。

3 第1回会議内容

- (1) 「県立高等学校教育の在り方～長期ビジョン～」についての概要説明
- (2) 地域の高校に関する状況等の説明
- (3) 各地区における高校及び学科の配置の在り方等についての意見交換

4 実施状況

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 （盛岡①）	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年 5月20日	岩手県水産会館	20	9	16	7	52
盛岡 （盛岡②）	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年 5月27日	岩手県公会堂	19	4	5	7	35
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年 5月23日	花巻市定住交流センター	20	7	12	19	58
県南	奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市	令和7年 5月28日	奥州市役所 江刺総合支所	20	9	11	15	55
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年 6月4日	三陸公民館	22	1	9	8	40
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年 6月5日	宮古地区 合同庁舎	19	2	7	18	46
県北 （県北①）	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年 5月26日	久慈地区 合同庁舎	16	2	5	9	32
県北 （県北②）	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年 5月23日	二戸地区 合同庁舎	18	2	5	11	36
計				154	36	70	94	354

地域検討会議（第2回）の主な意見等

地 区	開催日	主な意見・提言等
盛 岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和7年 8月28日(木) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当初案において、1学級校の地域で果たす役割の重要性を考慮し、地域校を位置付けたことに感謝している。 ・ 高校の統廃合により、生徒の通学時間や交通費等が増えることが懸念されるが、教育の機会の保障という計画の趣旨に反するのではないかと。 ・ 当初案においては生徒の通学負担の増加が懸念されるという印象を持った。 ・ 学びを集約することにより、公共共通機関で通学できない生徒が増えることが予想されることから、寮や下宿の整備を検討する必要があるのではないかと。 ・ 地域産業を担う人材の育成は、住民生活や地域振興にも大きな影響を与えるものであることから、地域課題を具体的に学ぶ学科やコースの設置、教育課程の弾力的な編成を今後も検討していく必要があると感じているところ。 ・ 当初案については、これまでの議論を通じて地域の声が反映され、小規模校への配慮も一定の納得が得られると評価する。
盛 岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和7年 8月20日(水) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平舘高校および大船渡東高校の家庭系学科の募集停止により、県内の家庭系学科が2校のみとなる可能性があり、家庭科教育の将来に不安を感じている。 ・ 少子高齢化や教員不足が進む中、ある程度の高校再編はやむを得ないと考える。特に専門高校については、センター・スクールの設置が必要という考えに賛同する。 ・ 少子化だけでなく、社会の変化を見据えた高校再編が必要であり、単なる人数調整ではなく将来を見据えた視点が重要だと感じている。 ・ 今回の第3期県立高校再編計画案は、地域産業や子どもたちへの配慮が感じられ、非常に評価している。 ・ 平舘高校の家政科学科について、令和9年度からの募集停止ではなく、状況を見ながら判断する猶予を設けてほしい。 ・ 再編計画については、生徒数の減少を踏まえるとやむを得ないと感じているが、地域に学校や学科がなくなった場合、郷土を支える人材育成が困難になるのではないかと不安がある。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和7年 8月21日(木) 14:30～16:30	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花北青雲高校の情報工学科は、他の工業系以外の学科と交流があり柔軟な教育ができ、岩手県内、花巻市内に就職する生徒が多く、計画に記載されている企業の求める人材を養成するという観点からも非常に重要である。 ・ 黒沢尻工業高校については、令和9年度に既存の1学科を半導体関連の学科に再編するという事で、地域の産業構造の観点から一定の評価をしている。 ・ 花北青雲高校に関しては、地域や地域産業担う人材を供給できる大事な学校であり、工業のバランスだけで募集停止としていいものか疑問がある。 ・ 地域校という位置付けは、現在大規模な高校もいずれはそのような話になってくると思われ、地域と一体となって学校をより良くしていくことが重要である。 ・ 地域校について、1学級校もできる限り維持するという現行計画の考え方を大切にいただいたことに感謝する。 ・ 専門学科については、物づくりという観点で、県として専門高校への魅力を高めるためのキャリア教育をさらに先導する必要があるのではないかと。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 26 日 (火)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大東高校の学級減等の判断は、令和 8 年度からの新計画からの地域の取組や結果を踏まえて行うべき。令和 9、10 年度の入試結果を見た上で、複数年の数値から判断するべきではないか。 近年の人口減少を鑑みると高校の再編もいたしかたないと思うので、地域住民に理解のある再編計画にしていきたい。 下宿や寮など通学支援の体制整備を検討するなど、地元の子どもたちにとって通いやすい環境を整えて頂きたいと思う。 杜陵高校奥州校は、不登校傾向や特別な配慮を必要とする生徒の受け皿として貴重な存在である。そのような高校が移転となると奥州市の生徒で一定数通学を断念する生徒が出てくるのではないかと懸念している。 金ケ崎高校の水沢高校への統合について、今後、金ケ崎高校を希望する生徒が不利益を受けることのないよう、従来と同じ条件で安心して入学できる体制を整えていただきたい。 1 学年 1 学級の花泉高校を「地域校」と位置付けて学びの保障を図ることは、特例校との区別を明確にし、評価できる。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 29 日 (金)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 沿岸部の人口減少や少子化の背景は東日本大震災の影響がある中、当初案に東日本大震災の影響を考慮する文言がない。 大船渡東高校の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。大船渡市として水産の街を謳っている中、事業者と生徒が共同した取組ができるというのは大きな強みであり、そのような中、食物文化科が募集停止となるのは理解できない。 地域や地域産業を担う人材の育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止については強く反対する。 少人数では教育の質が保てないことが懸念される。統合や集約はビジョンを持って進め、専門性の確保や環境整備も考慮すべきである。 水産及び調理師養成施設の集約については、気仙地区から宮古市への通学は難しいため、保護者の負担を軽減するために寮や下宿の整備を検討していきたい。 今回の当初案については、地域校の位置付け等、小規模校を残す方針が示されたことはうれしく感じている。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 21 日 (木)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 学級校の募集停止の基準について、入学志願者の数が 2 年連続して 20 人以下となった場合、原則として翌年度から募集停止とすることとしているが、夢や希望が持てるように、もう少し柔らかな表現に検討できないか。 宮古水産高校に、水産と調理師養成施設の学びを集約することについては、人口減少、生徒数の減少の中においては、教育や設備を集中し、宿泊施設を整備することにより、子どもたちの教育の質の向上や、水産関係の後継者育成に繋がるものと評価している。 水産の学びなどの集約は賛成である。南北に長い本県にとって、集約して教育の質を上げるということは非常よいと思う。 子どもの学びの場の確保、統廃合による子どもや保護者の負担等の課題に対応するため、寮を含めたサポートの在り方について検討いただきたい。 計画において、「望ましい学校規模を設定しない」と明記されている点は、地域の実情に配慮した柔軟な姿勢として非常に評価できる。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>8 月 20 日 (水)</p> <p>9:30～11:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> 久慈翔北高校は本年 4 月に統合されたばかりであり、水産系列および調理師養成施設の廃止は、生徒の選択肢を狭めることにつながると懸念されている。 地元で学びの場があることは、保護者にとっても重要であり、教育機会が少ない地域からは人が離れてしまう懸念がある。 生徒数の減少による学級減はやむを得ないが、学校減は地域や子どもたちの将来に大きく影響するため、慎重な判断を求めたい。 子どもを主語とした教育の視点を大切にし、進路の選択肢を狭めないような工夫を求めたい。 水産や家庭科の学びが宮古に集約されると、これまで希望していた生徒が進路を変更する可能性が高く、地域から該当分野を志す生徒が減少することが懸念される。

地 区	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和7年 8月22日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編が学校の集約や規模の縮小に終始することなく、学校現場や、部活動の充実、或いは生徒数確保という基本的な取組についても併せて行っていたきたい。 ・ 募集停止の基準については、原則ということであるが、地域との丁寧な協議をお願いしたい。 ・ 子どもの数が絶対的に減っていく中で、先を見据えた校舎改修や、建て替えを検討してもらいたい。 ・ 人口が減っている中、学級減については仕方がないことと理解している。 ・ 小規模校の存続にあたっては、いわて留学が非常に有効な手立てだと考えている。以前から繰り返し話しているが、生徒募集の条件について、入試条件の一層の緩和や条件整備を進めて欲しい。 ・ 学校規模については、本県の広大な県土、地理的条件等を鑑みて、どの地域の子どもたちも等しく教育を受けられる環境を整えることが大事だと思っている。

地域検討会議（第 1 回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡 ① (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	令和 7 年 5 月 20 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 国の就学支援金の所得制限撤廃により、進学費用の面でハードルが下がり、中学生が私立高校に進学しやすい状況になることが予想される。少子化に伴い、生徒数の減少が進む中、私立高校との共存や定員調整についての慎重な議論が必要になると感じている。 中学生の進路の選択肢を閉ざさぬよう、今後、1 学級校の在り方については、柔軟な対応が大切である。また、盛岡市一極集中を是正する募集定員の調整や、私立高校と募集人数の調整等の検討も必要である。 高校には、地元の産業ニーズに応じた人材育成を進めて欲しいと感じており、地元根付いた産業の専門コースを設置することもよいのではないかな。 充実した高校生活を保障するためには、高校の適切な規模を維持する必要があると感じている。県立高校再編計画の策定の際にはその点も踏まえて慎重に検討していただきたい。 地域課題の解決に向け、知事部局や産業界と協力し、人材育成をより戦略的に進めるべきだと考えている。その際に、専門高校の担う役割は非常に重要である。
盛岡 ② (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	令和 7 年 5 月 27 日 (火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 現計画において 1 学級校の入学者数が 2 年連続で 20 人以下の場合は原則として統合とされている一方、1 学級校も含めた各地域の学校をできるだけ維持するということが記載されている。次期県立高校再編計画においても、この方針を継続していただきたい。 今後、生徒数が減少する中、生徒が自分の将来に向けて多様な学びを選択できる環境や、県内各地域の特色を生かした学びの環境を引き続き作っていただきたい。 今後の教育政策を考えたときに、公立と私立の共存に踏み込まなければ、根本的な問題解決にはならないのではないかな。 地域産業の伝承や人材育成に向けた学びを充実させるため、専門高校の教育内容を地域産業と連携させ、専門分野に特化した学びの場を作る等、専門高校を差別化、個別化していくことが必要ではないかな。 国の制度として総合学科が設立されて約 20 年が経過したところであり、県としてその在り方を検討する時期に入っているのではないかな。
中 部 (花巻市、北上市、 遠野市、西和賀町)	令和 7 年 5 月 23 日 (金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 医学部進学に関しては、県内志願者の学力の課題が指摘されており、中高一貫教育等を通じた学力向上が不可欠であると考ええる。 黒沢尻工業高校のように、半導体などの最先端分野に対応した独自のカリキュラムを導入する学校の取組を評価し、今後は志願者増と理工系人材の育成に繋がるよう専門学科の魅力化及び充実を求めたい。 専門高校において、子どもたちが進んで通いたくなるような、特色ある高校づくりを進めて欲しい。 少子化に伴い定員割れが常態化する中で、受検に対する緊張感やモチベーションが薄れている。定員の見直しや競争率の適正化によって学習意欲を高める工夫が必要ではないかな。 各学校が独自性を持ち、ブランド化していくことが求められる。地元教育委員会としても小中学校と連携し、地域全体で教育の質を高める取組を進めたい。 不登校・不適應の生徒の進路確保が課題であり、小規模校による温かい対応や学びの多様性へのニーズが高まっている。チャレンジスクールの公立での拡充が望まれている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 南</p> <p>(奥州市、金ヶ崎町、平泉町、一関市)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 28 日 (水)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立高校への進学率が 15.7%に達しており、授業料無償化や魅力向上策によって公立高校からの流出が懸念される。今後は、人口減少と公立高校への進学者数減少の影響を踏まえた公立高校の戦略的対応が求められる。 ・ 農業、工業、商業などの専門高校は、地域の基幹産業を支えるために重要な役割を果たしている。最新設備の導入や学科の最適化などを通じ、地域産業の人材育成に貢献できる環境整備を進めることが重要である。 ・ 今後、高校を再編する場合は、生徒の学びを保障するために、学びの地域バランスに配慮しながら進めていただきたい。 ・ 人口減少と少子化の影響を受け、中学生の進路選択の多様性を確保するために、県立高校の再編を 6 地区の広域化で検討する必要性を認識している。 ・ 生徒やその保護者の希望する学びと地元自治体が希望する学びが一致しておらず、乖離が見られる。また、農業や工業等を専門的に学んでも、地元就職するとは限らず、県外就職の割合も多くなっている。専門教育の在り方の再考、カリキュラムの再編が必要ではないかと感じている。
<p>沿岸南部</p> <p>(大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市、大槌町)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 4 日 (水)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師となる人材を地域で育成していくという観点から、医学部進学コース等を設置し、医療人材育成にも取り組んでいただきたい。 ・ 1 学級校もできる限り維持するという後期計画の考え方について、次期再編計画でも踏襲していただきたい。 ・ 少子化等の影響を考えると、県立高校の再編は絶対に必要だと考えるが、単に人数により統合するのではなく、ビジョンを持った統合としてもらいたい。 ・ 地域みらい留学や地域連携コーディネーターの導入は学校の活性化に有効だと考える。学校の運営を教員だけに任せず、自治体と連携した支援が重要である。 ・ 中学校の不登校生徒の増加に伴い、定時制、通信制高校の選択肢を拡充すべき。また、沿岸地域に定時制と通信制併設校を設置し、生徒の選択肢を増やすことが必要ではないか。
<p>宮 古</p> <p>(宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>6 月 5 日 (木)</p> <p>10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域から高校が無くなることは、保護者の通学負担増や町外流出等の問題を抱えることになる。東日本大震災の被災による人口減少が大きい地域については、他の人口減少地域と同一視して再編を進めないように留意していただきたい。 ・ 学区は盛岡地区への一極集中を防ぐために設定されているものと理解していたが、盛岡地区でも生徒数減少が進む中、学区制の撤廃により県内全域で自由に進学できる仕組みを検討するべきではないか。 ・ 高校教育の在り方を考える際には、地域の産業に適した学科配置となるよう検討していただきたい。 ・ 専門高校の魅力を感じる機会がないまま普通高校への進学が一般化しているのではないかと。地元に残りたい生徒のためにも、工業、商業高校の価値を高め、進学の選択肢として魅力を持たせるべきである。 ・ 定時制、通信制高校について、今後、多部制や単位制のニーズが増えてくると予想される中、沿岸地区にも多部制、単位制の定時制高校が必要なのではないか。 ・ 小規模校、大規模校それぞれの特性を活かし、子ども中心の教育を推進していくべきである。
<p>県 北 ①</p> <p>(久慈市、洋野町、野田村、普代村)</p>	<p>令和 7 年</p> <p>5 月 26 日 (月)</p> <p>14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北本線沿いと違い、盛岡の学校に簡単に通えるという状況ではないことから、子どもたちの学習機会を確保する必要がある。 ・ 中学校卒業業者について、5 年後には今年度と比較して 85%、10 年後には 60%を切るということを考えれば、普通科については集約していく必要がある。一方で、久慈地区の産業に合わせたアパレル関係、工業土木関係、水産関係といった学科の存続は必要だと考える。 ・ 少子化が進む中で、学校規模によらず、平等公平に高校教育を受けられるようにしてもらいたい。 ・ 定数を 35 人にすれば財政負担が生じると思うが、ドイツやアメリカのように 30 人程度にしていかなければ、将来、危機的状況になることを危惧している。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>県 北 ②</p> <p>(二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>令和 7 年 5 月 23 日(金) 14:30～16:30</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 学級の定員を 40 人から 35 人に出来ないか、検討していただきたい。 ・ どうすれば地元の中学生在が地元の高校に進学するのかを考えたときに、学習面で差が出ないような施策が必要なのではないか。 ・ 各地域に高校を 1 校は維持した上で、地域の生徒が地元の高校を選ぶために、地元の高校の魅力を発信していただきたい。 ・ 遠隔教育を小規模校に限らず進めることで、科目開設の幅が広がるのではないかと。また、教員の複数校勤務、きめ細やかな指導の導入を検討すべきではないか。 ・ 医師確保や IT 人材の育成も重要であるが、小規模校で行われている、一人一人に寄り添った教育も重要であり、そのような学校を必要としている生徒も増加している。 ・ 小規模校だからこそ遠隔教育においても教員の丁寧なフォローがあるとか、学校間連携を可能にするとか、教育条件の改善を早急に進める必要がある。 ・ 高校の授業料無償化や併願制の導入により小規模校の存続が厳しくなる。入学者数が 2 年連続 20 人以下となった場合、募集停止となる基準の適用については、より慎重に検討していただきたい。

**今後の県立高校に関する地域検討会議（第2回）（沿岸南部地区）
意見交換の記録（要旨）**

【陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町】

令和7年8月29日（金）

陸前高田市コミュニティホール
大会議室

■ 質問

淵上 清 大船渡市長

- ・ 1学級定員の40人については、縛りのようなものがあるのか。
- ・ 地域検討会議の持ち方について、エリアで検討する形でもよいのではないか。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 1学級の定員については、高校標準法に基づき40人としているものである。
- ・ 学校や学科の地域バランスについては地区を単位としているため、現在の形が望ましいと考えているところ。

■ 意見交換

佐々木 拓 陸前高田市長

- ・ 沿岸部の人口減少や少子化の背景は東日本大震災の影響がある中、当初案に東日本大震災の影響を考慮する文言がない。ぜひ、沿岸部の状況を考慮して検討していただきたい。
- ・ 水産の学科や調理師の学科は復興に必要であり、水産業、観光業、飲食業に係る人材が沿岸地域からいなくなると、我々の復興に係る取組が根本から崩れてしまう。現在の状況だけで判断するのではなく、復興を見据えた検討を行っていただきたい。
- ・ 沿岸部では水産業や観光業が、半導体産業以上に伸びる可能性を秘めており、教育の面からも支える取組を行っていただきたい。
- ・ 医系コースの設置等、魅力的な取組は内陸部の高校のみであり、沿岸部の高校で魅力的な取組を行おうとしてもなかなか要望を聞いていただけない。高田高校では、震災以降、国際交流や大学交流等を実施しており、そうした部分から魅力化を図りたいと考えているので今後検討していただきたい。

淵上 清 大船渡市長

- ・ 大船渡東高校の食物文化科の募集停止については承服いたしかねる。現在、一番希望の多い学科であり、生徒も地元と連携した様々な取組を実施している。大船渡市として水産の街を謳っている中、事業者と生徒が共同した取組ができるというのは大きな強みであり、そのような中、食物文化科が募集停止となるのは理解できない。
- ・ 食物文化科においては新たな取組をしていくことにより、現状の規模は維持できると考えているところ。
- ・ 集約するにしてもなぜ宮古なのかという思いもある。集約に伴い寮を整備するとのことだが、大船渡市でも環境は整っており、市としても学びの環境を整えるための様々な手立てを打っていきたいと考えている。

神田 謙一 住田町長

- ・ 歴史的にも経験のない少子化の進行の中、学びの環境を保障するという部分については評価をする。

- ・ 1 学級の定員については、国に改善の要望もしているとのことであるが、沿岸部に生まれた子どもたちをどのように育てるのか、また、持続可能な社会の作り手や地域産業を担う人材の育成という観点でから今後も検討が必要であると考えます。
- ・ いわて留学へのサポートを行うとのことだが、生徒の確保の在り方を考えたときに、将来の産業動向を注視しながら検討する必要があるのではないかと。
- ・ 地域にとって高校の存在は、教育分野のみではなく、公共交通の部分にも大きく影響がある。そうした様々な分野を横断的に考えながら検討していく必要があるのではないかと。

小野 共 釜石市長

- ・ 沿岸部では 15 歳における人口減少が大きく、盛岡等の内陸部に勉強やスポーツの面で進学する生徒が多い。
- ・ 釜石市でも、医系コースの設置を要望してきたが、現状では盛岡 1 校のみとなっていることから、ぜひ沿岸部にも医系コースを設置し、地元の生徒が盛岡に行かなくても医学部に進学できるという選択肢を作っていただきたい。医系コースの設置は、学力の底上げや人口減対策にも繋がる。
- ・ 釜石商工高校は令和 11 年度に学級減の見込みであるとのことだが、地域の企業からは即戦力となる人材の育成を求められており、地域に求められる学科をバランスよく設置していただきたい。

平野 公三 大槌町長

- ・ 大槌高校は大槌町にとってなくてはならない学校であり、地方創生の核となる存在である。大槌町でも複数のコーディネーターを配置し、地域を挙げて大槌高校の探究学習を支援してきたところである。
- ・ 大槌高校に地域探究科が設置され、長期ビジョンにおいて普通科改革のモデルとして今後のモデルとなるとされていることは、大槌町と大槌高校の連携が評価されたものと考えているところ。
- ・ 今後も県と大槌町が連携し、地域を担う人材の育成に取り組みたいと考えており、そのためにも、コーディネーター等の専門的な人材の配置について協力をお願いしたい。

伊東 孝 陸前高田商工会 会長

- ・ 地域や地域産業を担う人材の育成という観点から、高田高校の海洋システム科の募集停止については強く反対する。
- ・ 高田高校の海洋システム科については、現在、水産業がグローバル化している中、6 次産業化に対応する人材育成に取り組んでいる。また、ビジネス知識の習得や産業振興に貢献する取組を実施するなど、海洋システム科は魅力ある学科となっており、今後入学者が増えるのではないかと考えているところ。
- ・ 地域とも密着した取組も行っており、生徒や保護者も充実した教育内容を評価していることから、募集停止にするのではなく、募集定員を増やす方向で検討していただきたい。

齊藤 光夫 大船渡商工会議所 専務理事

- ・ 大船渡商工会議所では、あわびのブランド化に向け大船渡東高校の食物文化科と連携している。昨年はあわびを使った料理を考案してもらい、地域からの評判も大変良かった。また、大船渡市と大船渡商工会議所が共催しているビジネスコンテストにも積極的に参加してもらっており、非常に頼もしく感じている。
- ・ あわびのブランド化事業を手伝っていただいている復興庁のアドバイザーの方からは、大船渡東高校の厨房設備はすごく立派であり、有名な調理専門学校の設備にも匹敵するとの評価をいただいている中、調理師養成施設を宮古水産に集約するというのは非常に残念であると感じており、食物文化科を存続させていただきたい。

佐藤 準悦 大船渡市農業協同組合 常務理事

- ・ 水産及び調理師養成施設の集約については、今後の生徒数の減少等を考慮すると仕方ないと思うが、短絡的に生徒数のみで集約を判断するというのはいかがなものかを感じる。
- ・ 集約先となる宮古水産高校への通学のハードルが高いことから、結果的に集約先の学校の生徒確保も厳しくなるのではないかな。
- ・ 生徒の選択肢を確保するためにも、水産や調理師養成施設の学びをコースとして残せないか検討していただきたい。

千葉 憲一 気仙地方森林組合 業務課長

- ・ 住田高校に対する住田町の様々な支援がある中、地域校としての位置付けについては、住田町の取組が一定の評価をいただいたものと理解している。
- ・ 募集停止基準の 20 人については、これまでの経緯等を考えると自然なものと考えているが、仮に 20 人を超えない場合についても、機械的に判断するのではなく、在校生、保護者、同窓会や住田町と十分に相談したうえで判断していただきたい。また、その際は遠隔教育の導入や校舎等の活用についても検討していただきたい。

奈良 朋彦 一般社団法人邑サポート 代表理事

- ・ 住田高校が地域校として存続するという事は、ある意味、地域の側も試されているということではないか。現在、魅力化の取組により地域と学校が協力しながら様々な取組を行っているところであるが、お互いが成長しあえる環境をどう作っていくかという部分が大切である。
- ・ 小規模校を選んでもらうためにはPR活動が大切である。各学校の特色を学校や地域が様々な場面でPRすることが大切であり、県教委にもPRについて協力いただきたいと考えている

小笠原 順一 公益財団法人釜石・大槌地域産業育成センター職員

- ・ 地域の産業を担う人材の育成という言葉が様々出てくるが、インターンシップや企業訪問といった活動を継続的に実施していただきたい。高校生が企業と関わることで、企業も魅力を高めるための取組が必要になり、それが企業の成長につながると考える。
- ・ 沿岸の市町には三陸ブランドとして連携した取組を実施していただきたい。また、今後、環境産業は成長していく可能性があることから、教育の中に環境というキーワードを盛り込んでいただきたい。

兼澤 幸男 MOMIJI 株式会社 代表取締役

- ・ 専門教科の教員が不足し専門学科の集約が必要ということであれば、企業等から指導者を派遣してもらう方法を検討してはどうか。
- ・ 普通高校に進学した生徒の中にも、専門的な学びを求める生徒は一定数存在すると思われるので、そうした生徒の学びの環境を県で整えることにより、地域の教育の拠点として素晴らしいものになるのではないかな。

芳賀 光 有限会社ティー・ティー・エムつつみ石材店 代表取締役

- ・ 少子化が進む中、同じ規模で学校を存続させるのは不可能であると認識している。
- ・ 水産の学びについては、現在の入学者の状況や中学生アンケートの結果を見たときに本当に必要なかという思いもあるが、一方で、残さなければならないという思いもある。
- ・ 私立高校は魅力があり、授業料の無償化によりますます私立高校に生徒が流れる状況になるのではないかな。また、県立高校は私立高校と比べ、教員の魅力が見えづらいと感じている。

- ・ このような場での大人の意見は、様々ながらみがある中での発言となるため、当事者である子どもの意見を聴くための機会を増やす必要があるのではないか。
- ・ 学科の名称についても、昔から同じであることから、変更してもよいのではないか。

齋藤 卓 陸前高田市立高田第一中学校PTA 会長

- ・ 県内の高校の選択肢が少なくなること、私立高校や他県の高校への進学者が増えることを懸念している。
- ・ 水産や調理師養成施設の学びを宮古水産高校へ集約し、寮を整備することだが、寮に係る経費を懸念して進学をあきらめる家庭もあると思われることから、改めて検討していただきたい。

及川 由里子 大船渡市立PTA連合会 理事

- ・ 自分の子ども達の学校生活を見てみると、少ない人数により、一人一人の負担が大きくなっていると感じている。そのことを考えると、一概に統合や集約がだめということではなく、結果として魅力的な形になるのが望ましいのではないか。
- ・ 現在、進学の際に総合型選抜を選択する生徒が多く、高校での派遣事業の取組は重要である。また、その体験が次の学びのきっかけをつかむことにも繋がっている。
- ・ 私立高校の魅力があるというよりは、私立高校は情報の提示の仕方が上手であるという印象を感じている。県立高校では説明会等で聞いてもはっきりしない部分も多いことから、生徒や保護者への情報提供の仕方を改善する必要がある。
- ・ 寮や下宿は親のコストが増加するイメージがある。親は高校までは家から通わせ、その後の大学進学に備えて教育資金を考えている家庭が多いと思われるので、何かしらの支援を検討していただきたい。
- ・ 大船渡東高校の食物文化科のビジネスコンテストでの発表を何度か聞いたことがあるが、大変立派である。集約がやむを得ないとしても、同じような学びが担保されるような再編としていただきたい。

芳賀 新 大槌町立吉里吉里学園PTA 会長

- ・ 東日本大震災により少子化のスピードが速くなったとはいえ、今に始まったことではなく、今更議論していることに疑問を感じている。自分たちの市町村に子どもが必要というのであれば、市町村が本気で子どもに投資し、環境整備を行わなければ学校は残らないことから、地域の主体的な関与が必要である。地元に残したい気持ちはあるが、それだけでは維持できない。市町村の本気度が問われているのではないか。
- ・ 魅力ある高校は進学・就職の出口が見える。ビジョンを持たない生徒にも道を示せる学校が理想である。
- ・ 少人数では教育の質が保てないことが懸念される。統合や集約はビジョンを持って進め、専門性の確保や環境整備も考慮すべきである。また、再編計画については中高生にも意見を聞き、どんな高校が必要かを考えるべきであり、子ども中心の教育の在り方を議論する必要がある。今のタイミングが県立高校の在り方を考える最後のチャンスである。

山田 市雄 陸前高田市教育委員会 教育長

- ・ 地域を担う人材の育成については、地域に高校があるかどうか重要である。気仙地区は普通科に加えて専門学科が充実しており、他の地域に流出する割合が少ない地域であり、地元の高校で学んだ生徒が地元を支えてきた。
- ・ 今年度の入試では、気仙地区の高校で4学級分の欠員があったことから学級減の必要性は理解するが、学級数を減らしても専門学科の学びを確保するため、例えば総合学科のコースとして学びを

維持できないか検討していただきたい。

松高 正俊 住田町教育委員会 教育長

- ・ 水産及び調理師養成施設の集約については、気仙地区から宮古市への通学は難しいため、保護者の負担を軽減するために寮や下宿の整備を検討していただきたい。
- ・ 多様な子どもたちを受け入れているが、現場では職員の数が不足している状況もある。きめ細やかな教育が実施できるよう、県全体での教員確保に努めていただきたい。
- ・ 医師確保については再編計画に具体的な記載はできかねると思うが、気仙地区からも医師を目指す生徒が入学できる高校を設置していただきたい。
- ・ 今回の当初案に係る資料の中で、推測とはなっているが令和13年度に募集停止となるような記載がある。一般の方の中には、令和13年度に学校が無くなると思われる方もいるのではないかと。住田高校は現在も町と連携しながら魅力化の推進に取り組み、留学生の確保に努めている中で、この資料については良い印象を持ってない。資料については慎重に公表していただきたい。

高橋 勝 釜石市教育委員会 教育長

- ・ 医師確保は釜石市にとっても重要な課題であるが、県全体での課題でも。盛岡第一高校に設置しただけで終わるのではなく、沿岸地区にも設置するという内容を再編計画に記載することを検討していただきたい。
- ・ 釜石高校では令和10年度に学級減の見込みとのことだが、仮に学級減となった場合こそ手厚い配慮が必要であり、学級減になったことにより生徒が不利を受けないような教員配置等を検討していただきたい。また、釜石商工高校についても、仮に、新しい学科となる場合には、地域の意向を踏まえた教育内容としていただきたい。
- ・ 地元の子供たちが、他の地域の学校に行かなくても自分の夢が実現できると感じられるような魅力を、各県立学校が出していく必要があるのではないかと。特に、普通科についてはどの学校も一律な印象を受ける。また、体験入学の実施方法の工夫等により、もっと地元の小中学生に高校の魅力を発信できる工夫が必要なのではないかと。

松橋 文明 大槌町教育委員会 教育長

- ・ 今回の当初案については、地域校の位置付け等、小規模校を残す方針が示されたことはうれしく感じている。
- ・ 現在の高校は生徒から選ばれる立場であり、生徒も減少している中ではあるが、生徒の選択肢を安易に奪うことに繋がることから、学科は残すべきと考える。
- ・ 教員が不足しているとのことであるが、リモートでの授業等での対応も可能ではないかと。
- ・ 大槌高校では地元以外からの入学者も多い。これからは、地域だけでなく県全体への貢献を意識した教育の在り方が求められているのではないかと。

佐藤 学 気仙地区中学校長会（陸前高田市立高田第一中学校長）

- ・ 気仙地区は郷土愛が深く、地域の将来を担いたいと考えている生徒が多い地区である。それは、小学校も中学校も地域との結びつきが強いことが要因である。
- ・ 当初案については、沿岸南部地区の重要な産業である水産や調理師の将来が切り捨てられるという印象を感じた。
- ・ 少子化により学校規模が小さくなることで、部活動や生徒会活動といった子どもたちにとってやりたいことができる環境が無くなってしまふことを危惧している。そうなると、学校の魅力もなくなり、沿岸南部地区から人材が流出することに繋がるのではないかと。
- ・ 再編計画は、既存の学校をベースに切り貼りして検討しているだけと感じている。また、普通科

の学級数を減らすことは仕方ないが、専門学科を減らすことは賛成しかねることから、気仙地区に大きな総合的な高校を作り、私立高校に負けない魅力を出していくという新しい発想も必要ではないか。

金野 学 釜石地区中学校長会（釜石市立唐丹中学校長）

- ・ 学びを集約して寮を整備するとのことだが、金銭的な部分もあるが、精神的な部分でも安心して寮に入れることは難しいのではないかと。生徒自身に明確な目的意識があり、家を出て寮に入っても学びたいという意識が無いと、寮を選択しないのではないかと。また、その判断を15歳の生徒にさせるのは難しいのではないかと。
- ・ 中学校での進路指導がますます大事になると感じており、高校の選択を含め、将来何をしたいか明確な目的意識を持つ必要がある。ただし、目的があっても家から通える範囲に学びの選択肢が無いと、生徒は地元に残らないことから、個人的には、家から通える範囲に生徒の学びを確保する必要があると考える。

西川 信明 学校教育室高校改革課長

- ・ 募集停止基準については、機械的に当てはめるのではなく、地元自治体ともよく相談したうえで判断していきたい。
- ・ 医系コースの設置について、現在は盛岡第一高校に設置しているのみであるが、沿岸部でも医学部志望者に対し、学校が全面支援を行っており、医系コースがなくても医学部への進学実績のある高校はある。今後、このような取組を中学生に対し今まで以上に周知して参りたい。
- ・ 推測される学級減の時期を公表した理由は、自分の住んでいる地域の学校の状況を知らない方もいることから、早い段階で様々な取組を行ってもらうために公表したものである。
- ・ 寮の整備に伴い、生徒の生活のサポートも必要と考えており、保護者が安心して寮に預けられる体制についても検討する必要があると考えているところ。

